

江南市戦略計画基本計画の考え方について

1 位置づけと特徴

基本構想を分野ごとに具体化する計画

基本構想に掲げられる江南市の将来像について、5つの分野に具体化し、めざす地域社会のすがたや目標、市民と市役所の役割を明らかにする

計画期間は10年

全体の計画期間は10年とし、社会経済の変化や進行管理の結果をふまえて3年ごとに見直しを図り、前期3年・中期3年・後期4年の計画とする

地域の(市民と市役所が共有する)計画

市役所のやるべきことだけを描く計画ではなく、地域全体で何をめざし、その実現のために何をやるべきかを描く、市民と市役所が共有する計画とする

市民と行政がともにめざす「目標」を明示する計画

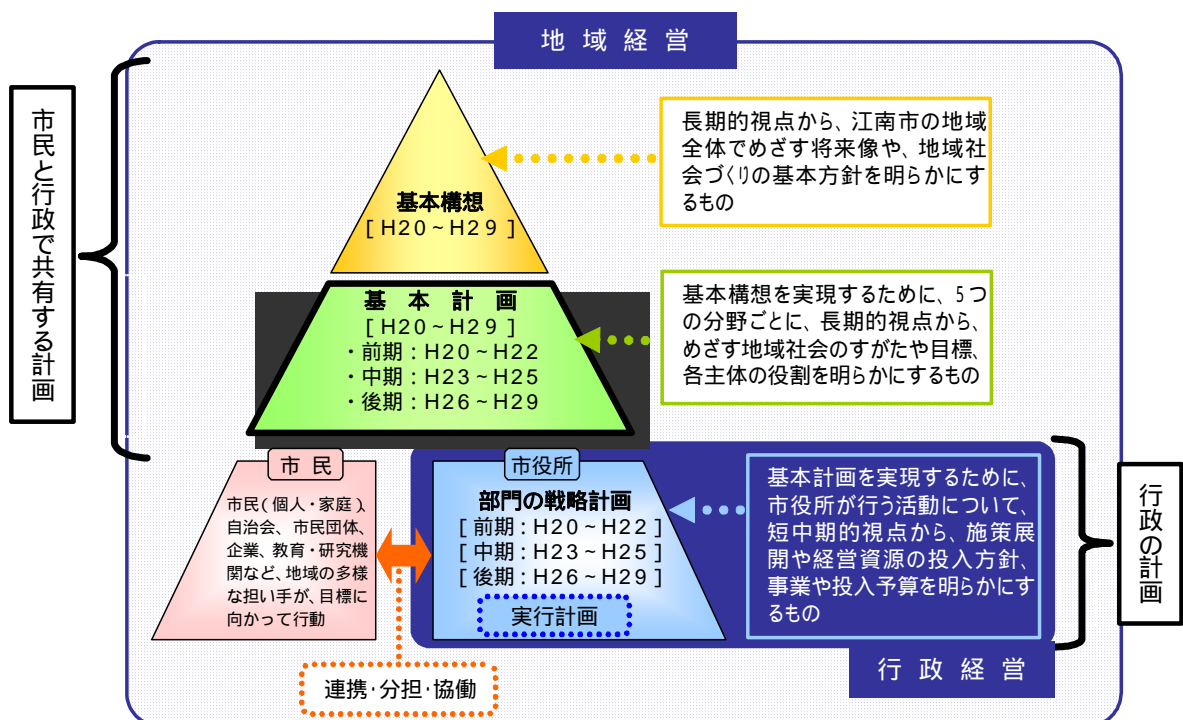
市民と市役所が協力してめざす具体的な目標(指標と目標値)を明確にする

めざす姿の実現(目標の達成)に向けた役割分担を提示する計画

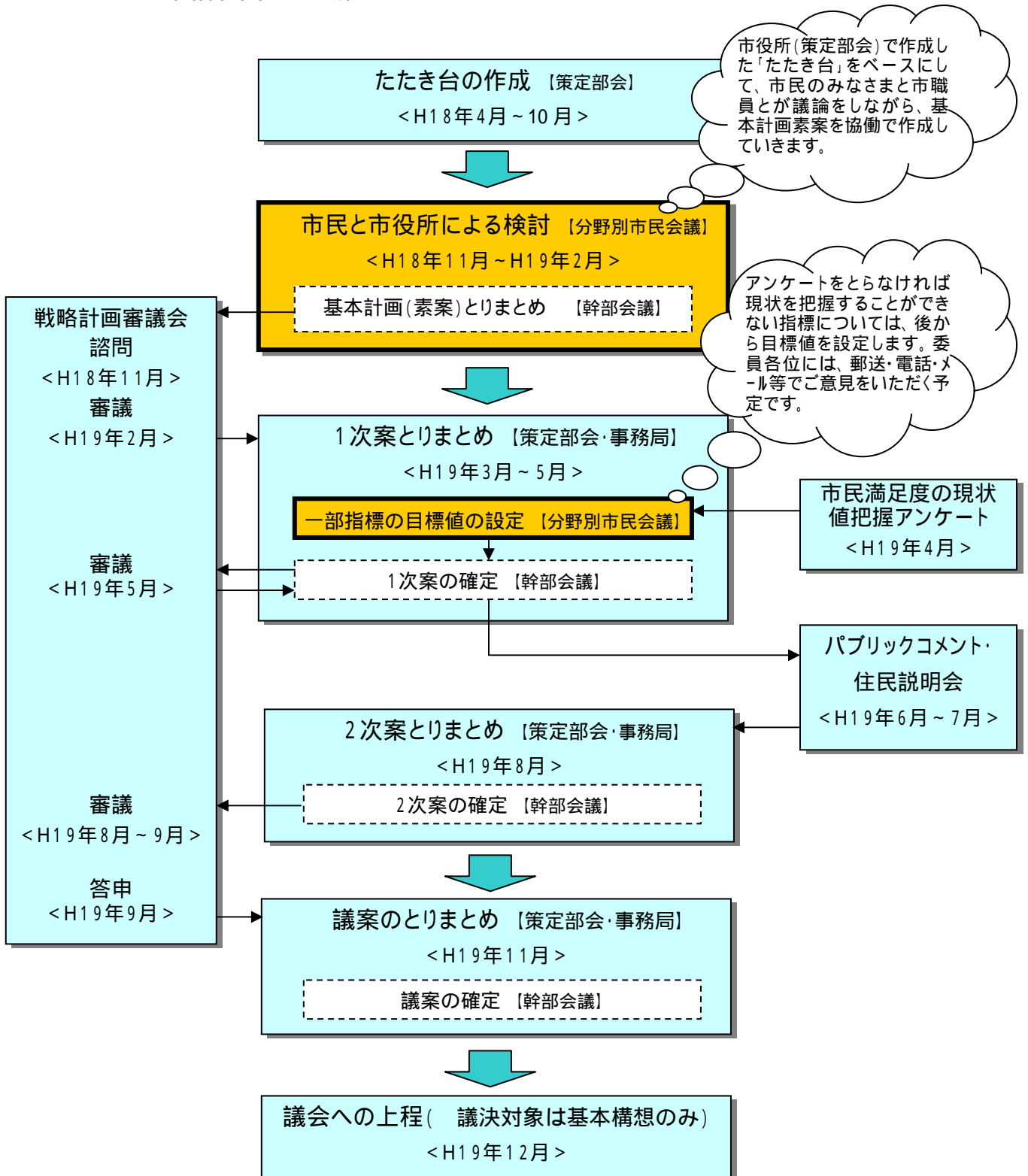
目標の実現に向けて、地域の構成主体がそれぞれの得意分野で力を発揮できるよう、市民と市役所の果たす役割を提示する

計画の実現状況は定期的にチェック

計画策定後は、目標の達成状況を、市民と市役所が協働で確認し、その結果を次の行動へと反映させる



2 基本計画策定の流れ



市民会議での検討結果は素案としてとりまとめ、その後、戦略計画策定審議会やパブリックコメントなどを通じて、広く学識経験者や一般市民のみなさまのご意見をいただきながら、1次案、2次案、議案へと発展させていきます。

3 「基本計画たたき台」とは

位置づけ

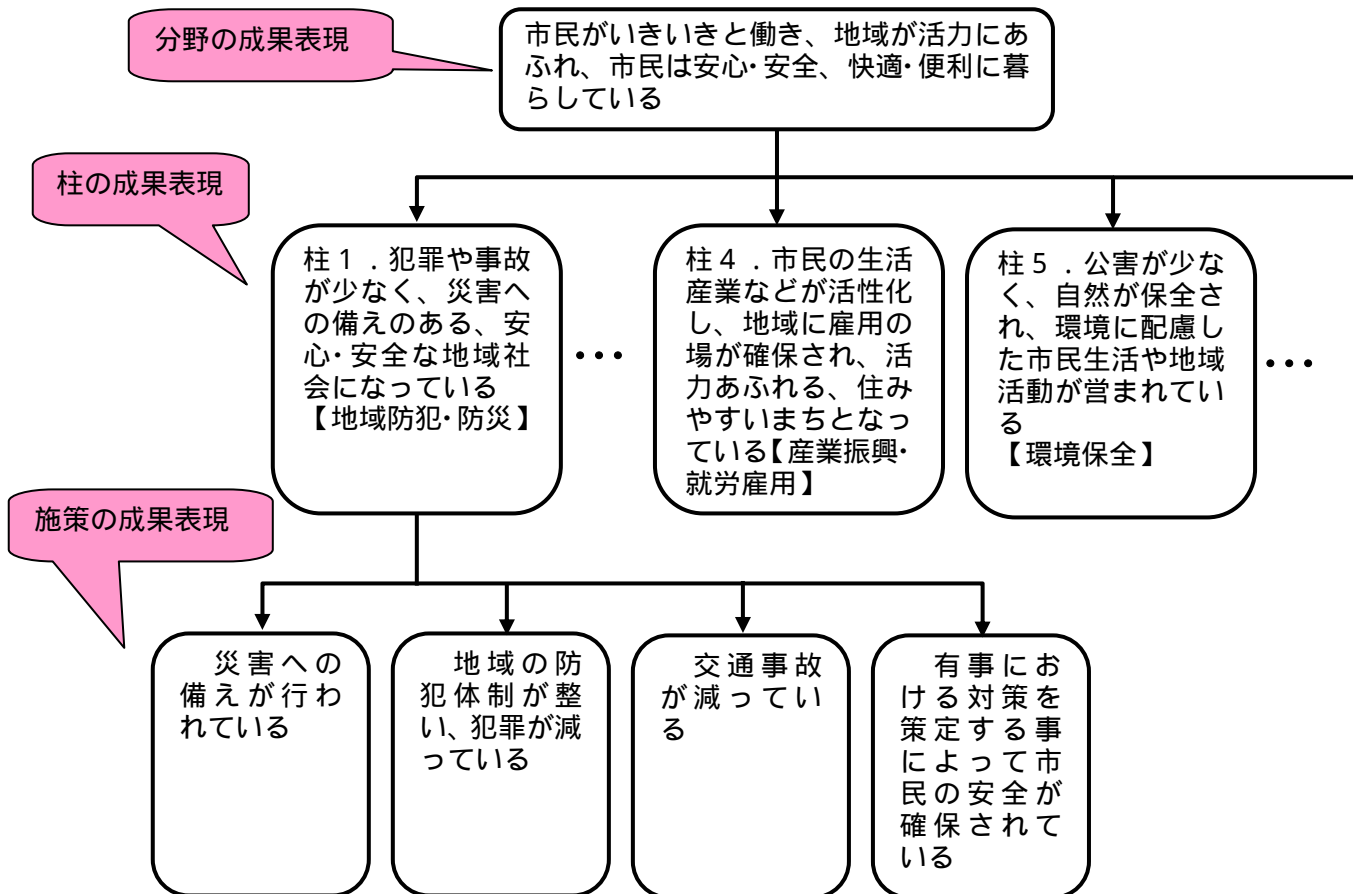
「基本計画たたき台」とは、策定部会（市職員により構成）において作成した、江南市戦略計画基本計画のベースとなる案です。

このたたき台に基づき、分野別市民会議の中で、市民のみなさまと市職員とが議論をしながら、基本計画素案を協働で作成していきます。

作成経緯

分野ごとに、「市民や地域がどのような状態になることをめざすか = 成果」を検討し、それを体系化して整理しました（「成果体系」）。

《安心安全・環境・産業・消防分野の例》



「成果体系」で設定した「柱」ごとに「SWOT分析」を行い、今後の取り組みの方向性を検討しました。

SWOT分析とは・・・

SWOTとは、強み(Strengths)、弱み(Weakness)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の頭文字をとったものであり、SWOT分析は、企業経営のビジョンや戦略を設定するための方法論です。

自らをとりまく外部環境(機会・脅威)がどのように変化しているのかを整理し、自らの内部環境(強み・弱み)を踏まえて、そういった変化にどのように対応すべきなのかを分析していきます。これにより、自らの組織が成長し発展していくための、展望(ビジョン)・使命(ミッション)・戦略を導くものです。

江南市では、民間企業で活用されているこの手法を、今回の戦略計画策定において取り入れ、各分野で今後の取り組みの方向性を検討しました。

SWOT分析のイメージ

		内部環境			
		強み S		弱み W	
		経営資源の強み (市役所)	経営資源の強み (地域)	経営資源の弱み (市役所)	経営資源の弱み (地域)
外部環境	機会 O	成長戦略 機会 + 強み 強みを生かして、成長機会に対応して、地域価値や市民満足度を高める方策を検討。	改善戦略 機会 + 弱み 弱みを補い改善することにより成長機会を生かし、地域価値や市民満足度を高める方策を検討。		
	脅威 T	縮小戦略 脅威 + 強み 成長や地域価値を高めることにはつながりにくい上、強みがあるので、状況をみながら縮小することを検討。	撤退戦略 脅威 + 弱み 成長や地域価値を高めることにはつながりにくい上、それに対応するには弱みもあるため、撤退する方策を検討。		

SWOT分析の結果から、柱ごとに「背景」「展望」「使命」を導きました。【シートA】

背景

当該柱をとりまく外部環境(社会潮流やニーズ)がどのように変化しているのか、また江南市の内部環境(地域の資源)はどのような状態になっているのかを整理し、今後、求められる取り組みの方向性を明らかにしたものです。

展望

「背景」を踏まえ、当該柱において10年後の地域や市民生活のすがたを描いたものです(ビジョン)。

使命

当該柱の「展望」を実現するために市役所が果たすべき役割のことです(ミッション)。

SWOT分析の結果から、柱ごとに「目標」「市民の役割・市役所の役割」を導きました。【シートB】

目標

「展望」が実現したときの状態を、指標と数値目標で表したものです。基本計画の見直しのタイミングに合わせ、平成22年、25年、29年の3時点の目標を設定しました。

市民の役割・市役所の役割

「目標」を実現するために、市民と市役所がそれぞれどのような役割を果たしていくとよいかを、市役所の立場から検討したものです。なお、ここでいう「市民」とは、個人・家庭、自治会等、市民団体、企業等、地域を構成する、市役所以外の様々な主体を総称するものです。

4 「基本計画たたき台」の見方

表紙

分野 **1** 分野名 **安心安全、環境、産業、消防分野**

分野全体でめざす、10年後の地域や市民生活のすがたを描いています。

分野の展望

全体	市民がいきいきと働き、地域が活力にあふれ、市民は安心・安全、快適・便利に暮らしている。	
	柱1	防犯・防災力の高い地域づくり (地域防犯・防災) 犯罪や事故が少なく、災害への備えのある、安心・安全な地域社会になっている。
	柱2	消防・救急体制の充実 (消防・救急) 火災や事故、災害などの発生や被害が最小限に食い止められている。
	柱3	快適で便利な日常生活の確保 (市民生活) 市民が困らずに、不安を感じずに、快適・便利に日常生活を送っている。
	柱4	生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興 (産業振興・雇用就労) 市民の生活産業などが活性化し、地域に雇用の場が確保され、活力あふれる、住みやすいまちとなっている。
	柱5	自然と調和した快適な生活環境の確保 (環境保全) 公害が少なく、自然が保全され、環境に配慮した市民生活や地域活動が営まれている。
	柱6	ごみの減量と適切な処理の推進 (ごみ減量・処理) 地域全体でごみ減量の取り組みが進められ、適切な処理が行われている。

「成果体系」に基づき、分野をいくつかの「柱」に分けて、各柱でめざす10年後の地域や市民生活のすがたを簡略化して表現

市役所の使命

市民の生活が地域で支えられる、活力ある地域づくりを重点戦略と位置づけ、地域の防犯・防災力の向上や、市民の日常生活を支える生活産業の振興に力を入れる。また市民の安心・安全な暮らしを、責任をもって守るため、危機管理や消防・救急体制を充実させる。快適・便利な暮らしを実現するため、質の高い窓口サービスや生活相談を提供する。市役所が率先して、環境に配慮した市民生活や地域活動を推進する。

分野の展望を実現するために、市役所が果たすべき役割を表しています。

シートA

柱1からスタート

当該柱をとりまく外部環境や内部環境など、展望や使命の背景にある課題や今後の方向性を整理しています。

柱 1 柱名 防犯・防災力の高い地域づくり(地域防犯・防災)

背景 (展望設定の背景にある現状・課題や社会潮流・ニーズ)

- ア. コミュニティの弱体化に伴い、地域の防犯・防災機能が低下し、生活を脅かす危険や不安が増えている。
- イ. 江南市においても、刑法犯罪や人身事故の発生件数は、この10年間で急激に増加してきた(データあり)。またこの地域では、東海地震や東南海地震の発生も予想されている。他方で、市民の災害への備えや、地域ぐるみの防犯・防災体制は十分に整っているとはいえない(データあり)。
- ウ. 犯罪や災害から市民を守るために、市役所だけの取り組みには限界がある。安心・安全な市民生活を確保するために、市役所と市民が協力して地域の防犯・防災力を強化することが求められている。



背景の裏づけとなるデータを参考として整理しています。

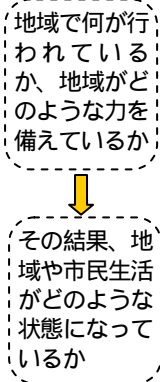
裏づけデータ

データ名	概要	出所	所在
刑法犯罪発生件数(江南警察署管内)	1,264件(H8) 2,361件(H17) 10年間で約1.9倍に増加。	江南警察署	総務課
人身事故発生件数(江南警察署管内)	498件(H8) 706件(H17) 10年間で約1.4倍に増加。人口1万人当りの発生件数は全国平均より高い。	江南警察署	総務課
日ごろから家庭で災害への備えができていると考える市民の割合	約14%(H18)	意向調査	意向調査
地域防犯が十分な状態であると考えている市民の割合は約27%	約27%(H18)	意向調査	意向調査
地域防災が十分な状態であると考えている市民の割合は約21%	約21%(H18)	意向調査	意向調査

当該柱においてめざす10年後の地域や市民生活のすがたを詳細に描いています。

展望 (10年後の地域・市民のすがた)

- ア. 「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の意識が定着し、地域全体での支え合いの仕組みが構築され、災害への備えや市役所、市民、自治会等が連携して防犯活動及び交通安全対策が行われている。
- イ. その結果、災害に対する不安が軽減され、犯罪や事故も少なくなり、市民が安心・安全に暮らしている。



市役所の使命

地域の防犯・防災力を向上させるための意識啓発、組織や人の育成、活動支援を行う。また、交通事故を減らすため、戦略的・計画的な交通安全施設の整備を行う。

柱の展望を実現するために、市役所が果たすべき役割を表しています。

シート B

柱 1 柱名 防犯・防災力の高い地域づくり（地域防犯・防災）

成果目標と役割分担

柱全体の目標を言葉で表現しています。（全体目標）

全体目標 犯罪や災害への不安が少なく市民が安心・安全に暮らしている

指標コード	指標	単位	現状値 (年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
全-1	犯罪や災害への不安が少ないと感じる市民の割合	%	不明 (H)	↗	↗	↗	市民の安心度を総合的に測る指標。	現状値設定後に設定。重点戦略であるため上向きを目指す。	現状値：H19年度市民満足度の現状値把握アンケート その後：市全体の市民満足度調査
全-2			(H)						
全-3			(H)						

指標

目標を数値で表すための“ものさし（尺度）”を設定してあります。

現状値（年度）

上段には指標の現状の値（直近の値）を、下段にはそのデータの年度を記載しています。

目標値

H22、H25、H29の3つの時点の目標数値を設定しています。

現状値がわからない指標については、矢印でめざすべき方向性が示してあります。

説明

指標の意味や、設定意図について、説明しています。

目標設定根拠

目標値の設定根拠を示しています。

データ取得方法

数値の把握手段やデータの所在について、説明しています。

柱全体の目標をいくつかの要素に分解し、言葉で表現しています。(個別目標)

個別目標 災害への備えが行われている

指標コード	指標	単位	現状値(年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
1-1	食料や非常持ち出し品などを準備している市民の割合	%	14.3 (H18)	20.0	25.0	28.6	家庭での災害への備えが防災の基本であるため、防災意識の状況を測定するもの。	意向調査では非常時の備えが「十分」及び「一応十分」の割合は14.3%にとどまり、今後の重要度も上位となっているため現状値の2倍を目指し啓発に取り組む。	現状値：H18年度市民意向調査 その後：市全体の市民満足度調査
1-2	自主防災組織資機材助成の申請率	%	76.5 (H17)	90.0	95.0	100.0	自主防災会で防災用資機材の購入等をした場合の助成制度を実施しているが、組織の防災意識度を測定するもの。申請した自主防災会数/全自主防災会数。	災害発生時には極めて重要な役割を果たす自主防災会の防災力増強を目指す。	現状値：H17年度決算数値 その後：毎年度の決算数値
1-3			(H)						

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭において、非常用持出品等の準備や防災についての話し合いなど災害への備えを行うとともに災害情報の入手に努める【個人・家庭】 各自主防災会は、日頃から地域における災害時危険箇所の把握に努める【自治会等】 各自主防災会は、発災時に実効性ある対応を可能とするため、自主防災会が主体となった地域の実情に合った防災訓練を積極的に行う【自治会等】 各自主防災会や企業等は、自主防災リーダーや防災ボランティアを育成する【自治会等・企業等】
<p>上記目標を実現するために、市民と市役所がそれぞれどのような役割を果たしていくとよいかを、市役所の立場から検討したものです。</p>	
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> 災害に関する知識や情報を、既存の手段以外に多様な手段により提供し、市民の防災意識を高める 自主防災会が自主的に防災訓練を実施し、地域の実情に合った防災力を確保できるよう、様々なアドバイスを行うとともに自主防災会の運営を支援する 防災ボランティアコーディネーターを育成する

個別目標 地域の防犯体制が整い、犯罪が減っている

指標コード	指標	単位	現状値(年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
2-1	年間犯罪発生件数	件	2,361 (H17)	1,860	1,560	1,160	犯罪が減っているかどうか直接測定するもの。	県において、この10年間で倍増したので、今後の10年間で10年前の水準で数値(H9)に戻す事を目標に戦略計画を実施するため江南市においても年間100件の削減をめざす。	江南警察署
2-2	地域安全パトロール実施率	%	63 (H17)	80	90	100	地域の防犯体制がどの程度整っているのかを測定するもの。地域安全パトロール実施区・町数/全区・町数(古知野区29町)布袋区(21町)で計算	10年後には、全区・町で取り組みが展開されることをめざす。	総務課でデータ保管
2-3			(H)						

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりが、犯罪発生の危険箇所を発見し、予防するとともに、その情報を市役所に伝え、防犯対策を共に考える【個人・家庭・自治会】
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> 地域安全パトロール隊の運営が厳しい状況にあることから、財政的支援、物的支援を通じて、地域安全パトロール隊の持続的な活動をサポートする。

個別目標 交通事故が減っている

指標コード	指標	単位	現状値 (年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
3-1	年間交通事故発生件数	件数	706 (H17)	640	580	500	交通事故が減っているかどうかを直接測定するもの。	この10年間で1.4倍に増加したので、今後の10年間で10年前の水準である500件(H8)に戻す事を目標とする。	江南警察署
3-2			(H)						
3-3			(H)						

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりが、交通事故危険箇所を発見し、予防すると共に、市役所にその情報を伝える【個人・家庭・自治会等】
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故危険箇所について十分に分析を行い、危険度の高い順に、道路照明灯や反射鏡などの交通安全施設を設置する。 交通事故危険箇所や交通マナーの周知を徹底し、交通安全の意識啓発を行う。

個別目標 有事における対策を策定する事によって市民の安全が確保されている

指標コード	指標	単位	現状値 (年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
4-1	市民の保護等危機管理体制に基づく対策により市民が安心して暮らせると感じる割合	%	不明 (H)				テロ等の武力攻撃等及び感染症等の緊急事態における市民の保護のための対策に安心を感じている満足度を総合的に測定する。	現状値が把握できないため、把握後に設定し、市民が直接的に影響を受ける戦略なので、上向き状態をめざす。	市全体の市民満足度調査
4-2									
4-3			(H)						

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の情報を正確に知り、警報等発令に伴い速やかに避難できるよう、平常時から備えておく。【個人・家庭】 避難に伴い、自らの非常持出品の準備及び備蓄をする。【個人・家庭】 高齢者、障害者等は自分だけで避難する事が困難なため、地域住民が協力しあって、避難する。【個人・家庭】【自治会等】
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> 正確な情報を収集し、警報等により全市民に伝達し、速やかに避難誘導が出来る体制作りをする。 避難及び救援に伴い、これらのための物資及び資材を備蓄及び整備をする。 武力攻撃災害における生活関連等施設の安全確保のため必要な措置をする。



5 「基本計画書」のイメージ

第 部 基本計画

第 1 章 目標フレーム（人口・財政・土地利用）

第 1 節 人口

基本構想に掲げた目標人口（現時点では、102,000 人とする予定）について、その考え方を説明するとともに、10 年分の目標人口をグラフで提示します。年齢階層別などの詳細データも掲載します。

人口フレームについては、現時点の推計結果に基づき、暫定的に目標人口を設定していますが、今後、最新データに基づき、人口推計を更新しながら、平成 19 年 8 月の二次案とりまとめまでの間の検討プロセスの中で確定していきます。

第 2 節 財政

財政推計の考え方を説明するとともに、財政計画（歳入・歳出）を提示します。10 年分の計画を掲載しますが、3 年ごとの見直しに合わせて時点修正を行います。

財政計画については、平成 19 年 1 月に財政シミュレーションを作成し、平成 19 年 3 月に時点修正を行い、平成 19 年 8 月の二次案とりまとめまでの間の検討プロセスで確定していきます。

第 3 節 土地利用

基本構想に示される予定の、土地利用の基本的な考え方に沿って、土地利用構想図と詳しいゾーン別の土地利用方針を掲載します。

土地利用構想については、平成 18 年 11 月から検討組織を立ち上げて検討を行い、その結果を平成 19 年 1 月に幹部会議（政策会議）で審議し、議論・了承を経て、一次案に掲載していきます。

第2章 基本計画の考え方

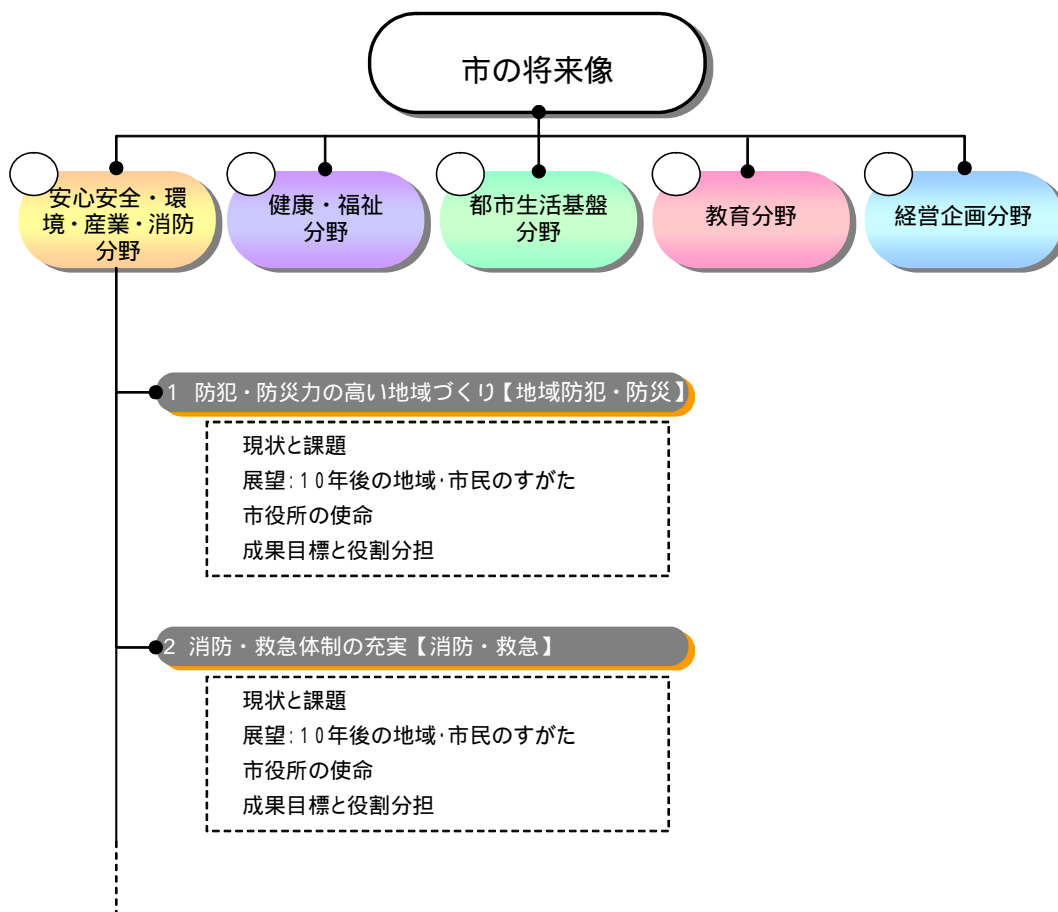
第1節 基本計画の概要

江南市戦略計画は、基本構想、基本計画、部門の戦略計画の3つの計画で構成されており、このうち基本計画は、基本構想に掲げられる江南市の地域全体の将来像について、5つの分野（安心安全・環境・産業・消防分野、健康・福祉分野、都市生活基盤分野、教育分野、経営企画分野）ごとにそれを具体化し、めざす地域社会のすがたや目標、市民と市役所の役割を明らかにするものです。

全体の計画期間は10年とし、社会経済の変化や進行管理の結果をふまえて3年ごとに見直しを図り、前期3年・中期3年・後期4年の計画とします。

第2節 基本計画の構成

基本計画は、5つの分野により構成し、分野ごとにめざす成果を柱立てし、展望や目標、それらを実現するための市民と市役所の果たす役割を明らかにしています。



現状と課題

江南市の現状や課題、社会潮流やニーズの変化などを整理するとともに、今後の地域経営の展開の方向性を明らかにしています。

展望：10年後の地域・市民のすがた

江南市の地域がどのようなになっているか、市民がどのような生活を送っているか、10年後に実現をめざす、江南市のすがたを描いています。

市役所の使命

展望を実現するために、市役所が果たすべき役割を明らかにしています。

成果目標と役割分担

展望が実現された状態を数値化し、目標として設定しています。また、その目標を達成するための、市民と市役所の役割を明らかにしています。

【展望の実現された状態を数値目標で表したもの】

展望の実現状態を測る“ものさし”

現在の状態

目標とする状態

指標の意味・設定した意図

全体目標	指標	単位	現状値	目標値			説明
				H22	H25	H29	
全 - 1	市民が安心・安全に暮らしている	%	50.0 (H19)	55.0	60.0	70.0	市民の安心度を総合的に測る指標。

【展望の実現状態を具体化・細分化し、数値目標で表したもの】

個別目標

災害への備えが行われている

指標	単位	現状値	目標値			説明	
			H22	H25	H29		
1 - 1	食料や非常持ち出し品などを準備している市民の割合	%	18.3 (H19)	20.0	25.0	28.6	防災の基本となる各家庭での準備状況を測る指標。
1 - 2	自主防災組織資機材助成の申請率	%	76.5 (H19)	90.0	95.0	100.0	自主防災組織の防災意識度を測る指標。

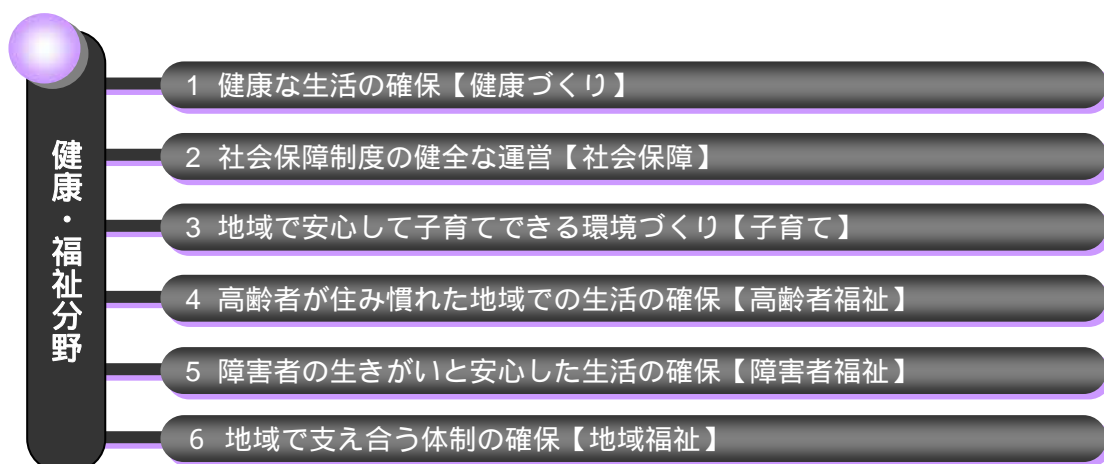
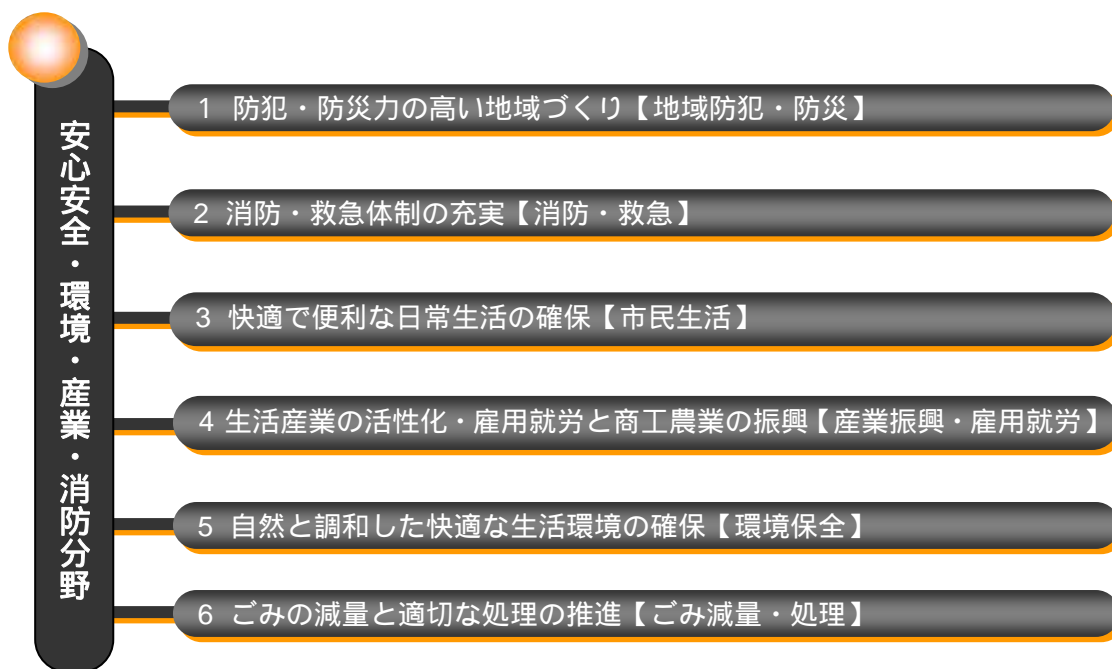
市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用持出品の準備や防災についての話し合いをする。(個人・家庭) ・各地区で、実情に合った防災訓練を積極的に行う(自治会等)
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する知識や情報を提供し、市民の防災意識を高める ・自主防災組織の運営を支援する ・防災ボランティアコーディネーターを育成する

目標を達成するために、市役所が担う役割

目標を達成するために、市民が担う役割

(A 3 見開き)

基本計画の成果体系（展望の体系図）



都市生活基盤分野

- 1 人にやさしいみちづくり【道路】
- 2 浸水被害のないまちづくり【治水】
- 3 安心・安全な住環境の確保【住環境】
- 4 秩序と賑わいのある快適なまちづくり【市街地整備】
- 5 花と緑あふれる公園づくり【公園緑地】
- 6 健全な経営と安全な水の安定供給【上水道】
- 7 公共下水道の普及促進【下水道】

教育分野

- 1 将来にわたって活躍できる人づくり【教育企画】
- 2 地域に開かれた快適で安全な学校づくり【学校教育】
- 3 生涯を通して能力を伸ばし、生かせる機会づくり【生涯学習】
- 4 豊かな、創造性ある文化・交流活動の充実【文化・交流】

経営企画分野

- 1 地域協働の推進【地域経営】
- 2 戦略的な行政経営の推進【行政経営】
- 3 公平かつ適正な課税・収納の推進【課税・収納】
- 4 効率的かつ円滑な事務管理の推進【行政事務管理】
- 5 より開かれた適切な議会運営【議会運営】

(分野の表紙)

安心安全・環境・産業・消防分野

安心安全・環境・産業・消防分野

市民がいきいきと働き、地域が活力にあふれ、市民は安心・安全、快適・便利に暮らしている。

1 防犯・防災力の高い地域づくり【地域防犯・防災】

犯罪や事故が少なく、災害への備えのある、安心・安全な地域社会になっている。

2 消防・救急体制の充実【消防・救急】

火災や事故、災害などの発生や被害が最小限に食い止められている。

3 快適で便利な日常生活の確保【市民生活】

市民が困らずに、不安を感じずに、快適便利に日常生活を送っている。

4 生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興【産業振興・雇用就労】

市民の生活産業などが活性化し、地域に雇用の場が確保され、活力あふれる、住みやすいまちとなっている。

5 自然と調和した快適な生活環境の確保【環境保全】

公害が少なく、自然が保全され、環境と調和した市民生活や地域活動が営まれている。

6 ごみの減量と適切な処理の推進【ごみ減量・処理】

地域全体でごみ減量の取り組みが進められ、適切な処理が行われている。

《柱1》 防犯・防災力の高い地域づくり（地域防災・防犯）

現状と課題

コミュニティの弱体化に伴い、地域の防犯・防災機能が低下し、生活を脅かす危険や不安が増えています。

江南市においても、刑法犯罪や人身事故の発生件数は、この10年間で急激に増加してきました。またこの地域では、東海地震や東南海地震の発生も予想されています。他方で、市民の災害への備えや、地域ぐるみの防犯・防災体制は十分に整っているとはいえません。

犯罪や災害から市民を守るために、市役所が独自にできることは限られています。市民やコミュニティの防犯・防災力を強化することが有効な方策として求められています。

平成19年5月の一次案とりまとめの段階で、全体のバランスをみて「裏づけデータ」を入れ込みます（文章中に取り込む、グラフ化するなど）。

展望：10年後の地域・市民のすがた

「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識が定着し、地域全体での災害への備え、地域内の連携による防犯活動や交通安全対策が行われている。

その結果、災害に対する不安が軽減され、犯罪や事故も少なくなり、市民が安心・安全に暮らしている。

市役所の使命

地域の防犯・防災力を向上させるための意識啓発、組織や人の育成、活動支援を行う。また、交通事故を減らすため、戦略的・計画的な交通安全施設の整備を行う。

成果目標と役割分担

全体目標 市民が安心・安全に暮らしている

指標	単位	現状値	目標値			説明
			H22	H25	H29	
全-1 犯罪や災害への不安が少ないと感じる市民の割合	%	50.0 (H19)	55.0	60.0	70.0	市民の安心度を総合的に測る指標。

個別目標 災害への備えが行われている

指標	単位	現状値	目標値			説明
			H22	H25	H29	
1 - 1 食料や非常持ち出し品などを準備している市民の割合	%	18.3 (H19)	20.0	25.0	28.6	防災の基本となる各家庭での準備状況を測る指標。
1 - 2 自主防災組織資機材助成の申請率	%	76.5 (H19)	90.0	95.0	100.0	自主防災組織の防災意識度を測る指標。

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用持出品の準備や防災についての話し合いをする(個人・家庭) ・各地区で、実情に合った防災訓練を積極的に行う(自治会等)
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する知識や情報を提供し、市民の防災意識を高める ・自主防災組織の運営を支援する ・防災ボランティアコーディネーターを育成する

個別目標 地域の防犯体制が整い、犯罪が減っている

指標	単位	現状値	目標値			説明
			H22	H25	H29	
2 - 1 年間犯罪発生件数	%	2,500 (H19)	1,860	1,560	1,160	犯罪が減っているかどうかを測る指標。
2 - 2 地域安全パトロール実施率	%	65.0 (H19)	80.0	90.0	100.0	地域の防犯体制の充実度を測る指標。パトロール実施小学校区数 / 全小学校区数。

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪発生の危険箇所を発見し、犯罪予防に努める(個人・家庭、自治会等) ・危険箇所の情報を市役所に伝え、防犯対策を共に考える(個人・家庭、自治会等)
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全パトロール隊に対し、財政的支援、物的視点を通じて、活動をサポートする

個別目標 交通事故が減っている

指標	単位	現状値	目標値			説明
			H22	H25	H29	
3 - 1 年間交通事故発生件数	件	800 (H19)	640	580	500	交通事故が減っているかどうかを測る指標。

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の視点から危険箇所を発見し、予防するとともに、市役所にその情報を伝える(個人・家庭・自治会等)
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故危険箇所について分析を行い、危険度に応じて、交通安全施設を設置する ・交通事故危険箇所や交通マナーの周知を徹底する